



胃癌に対する ゲノム医療の展開

腫瘍ゲノムを調べて治療介入の方針を決定する医療を一般的に「がんゲノム医療」という。分子生物学・創薬事業の発展によりがんに対する薬物療法は急速な進歩を遂げている。胃癌領域では、抗HER2抗体薬、免疫チェックポイント阻害薬の登場、ドラッグリポジショニングにより治療方針が一変した。今年遺伝子パネル検査が保険取載され、胃癌に対するゲノム医療を実臨床で導入していくにあたり、クリニカルシーケンスの運用、免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー、遺伝性腫瘍症候群への対応など課題は山積している。本座談会では、StageIV胃癌に対するゲノム医療の展開について、この領域に先駆的に取り組まれている先生方に議論していただいた。

(開催：2019年1月)

〈司会〉

若井俊文
Toshifumi WAKAI



新潟大学大学院
消化器・一般外科学分野教授

小松嘉人
Yoshio KOMATSU



北海道大学病院腫瘍センター診療教授

辻晃仁
Akihito TSUJI



香川大学医学部臨床腫瘍学教授

西原広史
Hiroshi NISHIHARA



慶應義塾大学医学部腫瘍センター
ゲノム医療ユニット教授